

全模研の先生方

大変ご無沙汰しています。直下にも書きましたが、夏の AJEMUN の運営体制について大きな変更がありました。第2回大会の役員の方には何とか大会を継続させようと大変なお骨折りをいただいています。またようやく事務連絡以外の内容も記すことができました。まず僭越ながら私から授業で模擬国連を実施した際の実践報告です。その他教員MUNの報告など盛りだくさんですので、ぜひご一読下さい！

## 第3回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) の運営体制について

先日お送りした一斉メールにも記しましたが、次回大会より運営体制が変更になります。

以下はメールでの送信と同一文になります。

ご承知の通り、昨夏に第2回目を開催した AJEMUN ですが、第1回大会、第2回大会ともに全模研とユネスコ・アジア文化センター (ACCU) との共催という形で運営してまいりました。しかし第3回を迎えるにあたって昨秋 ACCU 側より主催団体を降りる旨の連絡がありました。理由は人手不足です。ACCU は以前より全日本高校模擬国連大会をグローバルクラスルーム日本委員会 (JCGC) と共催しており、いわば全国レベルの模擬国連大会を2本抱えていたこととなります。そのような事情を鑑み、第2回大会の役員教員で協議した結果、ACCU が主催から外れることはやむなしと判断いたしました。ただ、我々全模研は教員のみ任意団体ですので、参加費を徴収するような金銭授受を伴う大会を運営するには、どうしてもパートナーとして法人化された組織が必要です。そこで年末にかけて役員教員で協議を重ねた結果、第3回大会はコトバンク株式会社を共催団体とすることに決定いたしました。実行委員募集時期が迫る中、わずか数か月でのパートナー探しでしたが、大会運営に関しては盤石な体制をとって参りますので、どうかご理解をいただきたいと思います。なお、2020年度の第4回大会については共催団体は未定となっています。今後、鋭意継続的にパートナー探しを続けて参りますので、こちらも併せてご承知おきください。

なお、以上のような事情のため、次回大会の役員は前回大会の役員がそのまま引き継ぐことと致しました。新たな役員募集はいたしませんので、何卒ご了解ください。第3回大会の役員は以下の通りとなります。役員の方、よろしくお願ひ致します！

飯島 裕希 (頌栄女子学院) 池田 亜佑美 (金光大阪中高) 柿岡 俊一 (埼玉県立浦和西高)  
後藤 芳文 (玉川学園) 斎藤 智晃 (渋谷教育学園幕張) 関 孝平 (大妻中高)  
竹林 和彦 (早稲田実業) 三浦 佳奈 (富士見中高) 宮坂 武志 (浅野高)  
室崎 撰 (渋谷教育学園渋谷) 米山 宏 (公文国際学園) 順不同 敬称略

### 第3回大会の実行委員生徒募集と大使生徒募集

すでに一斉メールにてお知らせしていますが、上記の理由により、例年より実行委員募集の日程が変わっています。以下の通りの要綱で実行委員を募集しますので、先生方の学校で希望者がいましたら奮ってご応募ください。

募集期間：2月15日（金）～2月28日（木）

募集詳細については大会公式HPをご覧ください

<https://ajemun2019.wixsite.com/ajemun2019>

なお、実際に会議に参加する大使の募集は例年通りに5月の中旬を予定しています。

### 全模研 2018 年度 年次総会

期日：2018年12月9日（日）

場所：玉川学園高等部

出席者：教員MUN参加者のうち7名の全模研会員

会議の成立：上記7名の参加に加えて、全会員に開催のメールを送り、欠席する場合は議決権を役員に委任する旨の可否を連絡したところ、委任を拒否する者はいなかったため、欠席者全員分の委任を代表が取り付けたものとして会議は成立した。

議題及び議事内容：

1. 第2回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）についての報告（報告事項：代表より）  
8月に開催された大会について概略及び結果の報告
2. AJEMUNの大会役員を中心に執筆中の書籍について進捗状況のご連絡（報告事項：代表より）  
校正が遅れており、出版は8月の大会ごろとなりそう。

\* 議題は全て議決を必要としない報告事項だったため、問題なく終了しました。

### 勉強会～第3回教員模擬国連

昨年12月9日に恒例の教員MUNが玉川学園にて同校高等部の後藤先生のご尽力で行われました。今回は議長に渋谷幕張高校の齋藤先生を迎えて実施しました。後藤先生と齋藤先生にはこの場を借りて御礼を申し上げます。当日は計13名+αの先生方の参加を得て、例年通り大学模擬国連OBの中川氏の全面協力のもと「水問題」をテーマにほぼ生徒と同じ形式で会議は進行しました。「水問題」といえどアフリカ開発会議を想定していて、会議参加国もすべてアフリカ諸国であるという形式で、最終的には「水問題」解決のための行動計画案を提出するという目的でした。参加者は模擬国連プログラムに関して経験の浅い先生方が多かったものの、会議終了までに8つの行動計画案が出されて、無事終了しました。終了後にアンケートを記入いただいているので、いくつかの声をピックアップしてお届けしましょう。

先生A

英語の授業でも成立するようなプランがあれば教えていただきたいです。授業に導入するイメージがわかりません。情報交換して実践例などを学びたいです。今日参加していろいろな学校の先生方が模擬国連の意義を感じ、導入しようと工夫されているのを知って励みになりました。

先生 B

繰り返し体験しないと参加した達成感が得られるところまでいかないなと思いました。それと自国だけではなく、今日ならアフリカと周辺国全体の知識がないと議論に参加できず、うなずくだけの人になってしまうなあと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。また、先生方の各校の取り組みのお話しがとても勉強になりました。「一生懸命やればやるほどおもしろくなる」これは本当にそうだなと思います。先生方、惜しみなく色々と教えて下さりありがとうございました。

教員 MUN も今年で3回目になりますが、毎年模擬国連経験の浅い先生方が、「一体どんなものなのだろう？」というファーストステップを踏むために参加されているようです。結果的にリピーターの先生方が少なく、参加数の大幅増には繋がっていません。一度経験されてから、その知見を学校に持ち帰って普及に努めていらっしゃるのなら全模研にとってもこの会議の開催意義を全うしたことになりますが、できれば経験豊富な先生方にもぜひ参加していただき、自ら体験する模擬国連の醍醐味を味わっていただきたいと思っています。ひょっとすると、自身が経験することで、また模擬国連の新たな教育的意義の一面を垣間見ることができるかもしれません。

なお、全模研会員の出席者は後藤先生と議長の齋藤先生に加え下記の通りです。(順不同 敬称略)

柿岡 俊一 (浦和西高)      木村 明子 (昭和女子大学附属中高)      濱野 あづさ (玉川学園高)  
中田 淳予 (小石川中等)      米山 宏 (公文国際学園中高)

## 書籍化事業進捗状況

以前よりお伝えしている書籍発行プロジェクトの件 (山川出版より「高校生の模擬国連入門 仮」) ですが、校正の遅れなどで、発行は今夏になりそうです。夏の AJEMUN 会場ではぜひ販売コーナーを設けたいと考えていますので、今暫くお待ち下さい。

## 模擬国連実践ファイル No.1~公文国際学園での地理の授業にて

今号から模擬国連の現場での実践例を掲載していきたいと思っています。今まで事務連絡ばかりに終始してしまっていた全模研ニュースですが、かねてよりもう少し先生方のお役に立てる情報を提供したいと考えておりました。遅まきながらこのような連載を始められたことで少しホッとしている状況です。第1回目は大変僭越ながら隗より始めよということで私自身の実践例をお送りいたします。

**資料用ファイルを添付していますので、よろしかったらご参照下さい！**

### 1. 実践例対象校、対象学年、教科、時期など

公文国際学園 (横浜市戸塚区) の高校2年生が対象である。本校では2学年時に地歴科科目として地理 A (2単位) を全員必修させている。ちなみに1学年時には世界史が全員必修で、2学年時の地歴科では地理以外に日本史、世界史が選択必修である。以前より何度か授業において模擬国連を導入してきたが、なかなかうまくいわずに (授業として納得できるレベルに達することができずに) もう授業での実施は諦めかけていたが、前述の教員 MUN における中川氏の BG や PPP 用の資料をいただけることになって、にわかに再

挑戦への意欲が湧いてきた。私の専門は地理であるので、今回の教員 MUN の議題であるアフリカの「水問題」は願ったり叶ったりである。今年こそは実現させよう実現させようと意気込んでいたものの、結局毎年のように時間は流れ、気が付けば11月に入っていた。本校の時間割は2週で1サイクルとなっており、地理の時間は2単位科目ということもあって、2週で3時間(60分授業)の配当である。高2学年の地理は私が一人で担当しており、全4クラスの授業スケジュールを考えると、冬休み前までにまず、概要の説明、BGの配布や担当国の決定などを済ませておき、冬休みの宿題としてPPPを記入させ、休み明けに本番の会議に入るというのが適当であろうと考えた。

## 2. 事前準備について

今回、意を決して何年かぶりに模擬国連授業を再開できたのは、中川氏の資料をいただけることができたからである。中川氏からいただいた資料をアレンジして、概要の説明書やBGを作成して配布した。特にBGはA4で20枚近くあったので、配布方法については随分と逡巡した。4クラス160人に印刷して配布するにはあまりに量が多い。かといってデータで配布して生徒たちはそれを開いてしっかり読むだろうか？このあたりは教員自身が一番よく分かっているだろうから、自校の生徒の特性を踏まえて決めればよい。結局私はどうしても物理的なものを生徒に与えなかったのもので、全員分を印刷して配布することにした。幸いA4で約20枚の元データはフォントを小さくして間隔等を詰めれば11枚にまで圧縮することができた。これならA3裏表で3枚に収まる計算である。

次にBGの配布と同時に担当国を決めさせた。一人1か国の責任制とし、希望をとって割り振ることとした。今回はアフリカの「水問題」がテーマで、中川氏の資料もアフリカ諸国のものは各国のものが揃っている。そこでこちらでアフリカ諸国25か国余りとその他先進国など15か国余りを割り込ませ、それら40か国余りの中から選択させるようにした。これがうまくハマった。各国資料についてイーブンな形で希望国を募れば、当然先進国に希望は集中するだろう。とくにやる気がそれほどない生徒ほどリサーチのための労力を考え、いわゆる「調べやすい国」を選ぶ傾向がある。今回は、アフリカ諸国には資料が有り、先進国にはないから自分で調べるように伝えた。すると意欲のある生徒が先進国を選び、そうでもない生徒がアフリカ諸国を選ぶという予想通りの結果になったのである。もちろん今回の主役はアフリカ諸国であるが模擬国連の議場で、先進国が活躍してくれないと議場が締まらないのは経験のある先生方はお分かりであろう。こうして担当国が決まった後にPPPの作成が冬休みの宿題であることを伝え、年内の授業を終了した。

## 3. 会議スケジュール

年明けに早速会議が始まった。全3回の大まかなスケジュールは以下の通りである。

第1時限目：作成したPPPをもとに全員が40秒ずつのスピーチ。その後はモーションをとってモデ or アン

モデを実施。

第2時限目：まず、議長裁量によるモデをとり、グループの確認や現在進めている内容の全体共有。その後モーションをとり、モデ or アンモデを実施。

第3時限目：開始20分後をDR提出締め切りとし、その後の20分でDR説明と質疑応答、最後の20分で投

票とまとめのアンケート記入。

## 4. DRについて

DRについてはひと工夫こらした。何しろ各クラス数人の経験者を除けば、模擬国連に縁もゆかりも無い生徒達である。ましてやDRの書き方を一から教える時間もない。そこで、考えたのは中川氏が昨年末の教員M

UNでとった方法である。教員MUNではアフリカの水問題の解決策として、DRに行動計画案（ANEEX 付属

書）という体裁で1枚の行動計画案を記した紙を添付するという方式をとった。今回はそれをさらにアレンジして、DRの前文と主文はこちらで用意し、その末端に「付帯文言」という形でアフリカの水問題を解決するための行動計画案を最大5文まで添付できるというルールにした。結果的にこれは功を奏していると感じた。なぜなら模擬国連の初体験者もDRの書き方にはとらわれずに中味の議論ができたと思われるからだ。

## 5. 会議の実際とDR

A組ではドイツ、フランス、アメリカなどの先進国を中心にDRが作成されていった。実際に提出されたDRは4文からなり、アフリカ諸国のニーズの調査から具体的なインフラ整備、導入された施設の維持管理のための教育支援、汎用的な資金提供といった網羅的なDRとなった。アフリカ各国間での対立や先進国間での思惑の相違などには踏み込めなかった様子で、ほぼ全ての国がスポンサーになるDRが提出された。よって投票ではコンセンサスが可能であったが、ここは経験のために敢えてロールコールを実施し、全大使が賛成の形で可決された。

B組ではドイツを中心とするグループとアメリカを中心とするグループがDRを作成した。とくにアメリカを中心とするグループが作成したDRはいくつかの国の固有な事情を考慮した形となり、汎用性を感じられないものとなった。とくに項目の中に「アメリカの支援を受けた国にアメリカが駐留する権利をもつ」という文言と、「中国に資金援助を受けた国は対中貿易についての関税を下げる」といった内容の文言が入ったことに関しては、違うグループからの反発もあり、投票では過半数をやや超える程度のギリギリで可決された。逆にドイツが中心となってまとめたDRも「フランス・イギリスの水道業者のアフリカへの進出を促す」といった文言があったために、やはり他方グループからの反発を買い、投票では半数を1票超えただけの本当のギリギリで可決された。

C組ではエジプトがナイル川の水利権を渡さない旨のスタンスを取っていたため、フランスを中心とするグループが唯一のDRとしてエジプトを排除するような文言を入れた。そのため、何カ国かの反対と棄権があったものの賛成多数で可決された。このクラスのエジプトとフランスの論戦は聞き応えがあった。エジプトの国益に叶ったスタンスは見事であったが、大使当人は同時に国際益と両立させるためにはどうすれば良いかということに対して真剣に悩んでいた。このエジプト大使のように全ての大使が自国の国益を確保することをしっかり目指し、同時に国際益を達成するための方策について建設的に議論したとき、会議としての素晴らしい成果が見られるのだと感じた。

D組ではイギリスを中心とするグループと南アフリカを中心とするグループがDRを提出した。両DRとも内容に曖昧な点があったため、その辺りが議論の中心となったが、時間が足りなくなり煮え切らない形で投票となった。そのためロールコールは行わずに挙手による賛成反対の意思表示とした。結果その曖昧な点がマイナスとなりいくつかの国の反対があったが、両DRとも無事可決された。

以上4クラスでの様子をごく簡単に記したが、提出されたDRを添付ファイルとして付けておくので、ご興味のある先生方はご覧ください。DRの文言を読めば生徒のレベルがあからさまになるので、表に出したくないのが本音だが、これも多くの先生方に模擬国連導入の一例として知っていただき、普及への弾みになればと本当に恥ずかしながら公開する次第です。DRの言葉遣いであったり、先述の「アメリカの駐留」の件であったりと内容そのものにも大いに疑問がつくものがありますが、それ全て私の指導不足と捉えてご容赦いただければと思います。

## 6. 評価とまとめ

3時限の会議の終了後、各クラスの次の授業でレビューを行った。各国の会議行動を振り返らせた他、会議監督として授業者として私からの講評やDRへのコメントを述べた。評価については、事前に提出させたPPPと会議後に実施したアンケートなどによって評価予定である。またそのアンケートで優秀大使を生徒相互に選ばせており、私の考えも含めて発表しているので、それも評価の対象としたい。

生徒の会議全般についてのアンケートを読むと「時間が足りなかった」という声が圧倒的に多かった。予想される事だったので、ルールやDRをできるだけ簡素にして、いわゆる国同士の折衝の場面に時間を割けるようにしたつもりである。それでも会議の説明を加えながらの60分×3時限では限られた内容についての議論

し  
かできずに、中途半端な煮え切れなさ感が残ったのは事実であろう。かといって、もう1時限増やす事については熟考が必要である。積極的に会議に参加している者には、その1時限も充実した時間が過ごせるだろうが、実際には今回の3時限のみの会議でさえ、グループの輪に加わらず、ただただと過ごす者が散見された。勿論それは指導上の問題であるが、モチベーションの低い生徒をどうやって会議の中に取り込んでいくかは、全員必修の授業で会議を行う際の継続的な課題であろう。

## 7. 最後に

模擬国連を実践されている先生方と話をしていると、どうしても「国連ごっこ」で終わってしまうので何とかしたい、という事をよく耳にする。ここでいう「ごっこ」というのは、何となくプラカードあげて、何となく議論に参加して、とりあえずDRができて・・・それで、議場では一国の大使として扱われるのだから、当の生徒達は充分やっている気になっている。ただ教員側の求めるレベルで考えれば、全く納得がゆかない、そんな状態を取って揶揄している言葉だろう。もっとそれぞれの担当国のリサーチを充分にして欲しいし、その国の本当の国益と国際益を天秤にかけながら、活発に議論に参加して欲しい、できることなら、グループの中で主体的にリーダーシップをとってDRをまとめて欲しい・・・こちらの要求は高まるばかりである。

結論を言ってしまうと、私は個人的には「ごっこ」レベルでもいいと思っている。我々は常に目標設定をして様々な教育プログラムを実践している。模擬国連もまた然りで、自校の生徒のレベルに合致した会議内容であれば、それがたとえ教員からしてみれば「ごっこ」レベルであっても構わないのではないか。もちろんそれでは満足されない先生方もいらっしゃるだろう。その場合は目標を高く設定すれば良い。そのためには会議の仕組みや議題の内容を良く理解し、さらには場数を踏むこと、経験を増やすことに限られると思われる。我々全模研のメンバーが日々至る所で練習会議を開催し、全国大会まで開いて場を提供しているのは、そんな思いからである。「ごっこ」から始まりニューヨークへ、そして真に国際社会で活躍する人材へ。全国の先生方がこの思いを共有し、それぞれの目標に向かって生徒とともに切磋琢磨するお手伝いができるのなら、全模研の代表としても幸いである。

## 事務連絡

1. 模擬国連の実践報告をお待ちしています！授業内、授業外、全員必修、希望者のみ、どんなパターンでも結構です。ぜひ全国の先生方のヒントになる報告例をお寄せください。この全模研ニュースで逐一掲載して参ります。
2. 練習会議の予定をお知らせ下さい！ オープン型の会議を実施している学校はぜひその情報を全模研ニュースに載せて、広く参加校を募ってはいかがでしょうか？多くの先生方からそのような日程の一覧が欲しいとご指摘を受けています。参加数を増やしたい会議があればぜひお寄せください！
3. 上の練習会議に限らず、全模研の先生方への模擬国連関係のお知らせがあれば、何でもお伝え下さい。全国の80名の会員の先生方へ宣伝が可能です！

## 編集後記

ようやく第 12 号が出せました。本来なら 2 ヶ月に 1 度の発行ペースを保ちたかったのですが、最近は半年に 1 回しか発行できていません。せっかく全模研に入会いただいても、そのメリットを感じていただければ意味がないと感じていました。事務連絡だけの全模研ニュースも然り。本来、研究と情報交換の場を提供するのがこの会の趣旨であるので、ずっと何とかしたいと思っていたのですが、今回初めて「授業実践報告」を載せることができました。本当に自分の指導力不足の恥を忍んで DR も公開しています。これで少しでも多くの先生方のお役に立つのなら幸いです。